

平成 26 年度 大阪府立茨木工科高等学校（全日制の課程）第 2 回学校協議会議事録

日 時 平成 26 年 10 月 25 日（土）15:00～17:00

場 所 茨木工科高等学校 会議室

出席者 委員長 1 名、委員 5 名、校長

首席 1 名、教務主任、進路指導部主任代行、生徒指導主事代行、特別活動指導部長、  
機械系主任、電気系主任、環境化学システム系主任、工学系主任代行、初任者 1 名

## 協 議

### 1．開会挨拶（校長）

土曜日にも関わらず、出席をいただき感謝する。本日は、先ほどまでオープンスクールを行っていた。生徒 135 名、保護者 52 名、合計 187 名の参加があった。また、本日・明日と大阪府産業教育フェアが弁天町のオーク 200 で開催されており、本校が会場設営の負担校となっている。教頭はそちらに出席しているため、本協議会は欠席させていただく。産業教育フェアは 1 万人規模の来場者がある大阪の実業系の高等学校 50 校近くが一同に会し、日頃の成果を発表する大きな催しである。今年度は当初 18、19 日開催の予定で計画が進んでいたが、急遽予定が変更され、この週末の開催となった。そのため、本校もオープンスクールと重なり、人員の配置等、綱渡り状態となった。本協議会についても、出席を予定していた者が産業教育フェアに行くこととなり、代行を多数立てることとなった。迷惑をかけることがあるかと思うが、何卒、ご理解のほどお願いしたい。

さて、学校の状況だが、10 月 15 日に後期始業式を行い、10 日が経っている。後で、各部署から報告させるが、昨年に比べ学校は非常に落ち着いており、さまざまな面で改善が見られる。

部活動でも大きな成果をあげている。昨日の新聞を見た方もいると思うが、地域版に第 57 回大阪府学生科学賞に関する記事が掲載されていた。この大阪府学生科学賞に本校のスーパーサイエンス・テクノロジー部が「小型人工衛星の研究」というテーマで出品し、優秀賞を受賞した。目標である本物の人工衛星製作への励みになると思っている。

本日は、今年度 2 回目の学校協議会ということで、主に学校のさまざまな取り組みの進捗状況、中間報告をさせていただく。1 回目は授業見学のため協議の時間が限られたが、本日は十分時間をとることができる。年度末に向け、忌憚のないご意見、提言をいただきたい。よろしく願います。

### 2．協議委員委員長あいさつ

精一杯務めさせていただく。進捗状況の確認と意見交換をさせていただく。多くのよい話があるということで楽しみにしている。忌憚のない意見をさせていただき、校長を補佐する役割を務めさせていただく。

### 3．出席者紹介

協議会委員、学校事務局員がそれぞれ自己紹介。

### 4．平成 26 年度 前期での本校教育活動について協議

(1) 平成 26 年度の学校経営方針について

(校長)資料の裏面の左から 3 列目の具体的な取組計画・内容の主なものについて現段階での進捗状況を報告する。

## 1. 「確かな学力」の育成について

(1) 基礎的・基本的な学力の定着をめざした授業改善の取組み

ア 少人数授業・研究授業の取組み

少人数 2 展開授業について、効果検証のため例年アンケートをとっている。アンケートは 11 月に実施する。生徒アンケートによる満足度は次回に提示する。授業アンケートについては、7 月に第 1 回を実施した。1 年生について昨年同時期の結果に比べると、かなり改善しており、少人数指導の効果がしっかり現れていると思っている。

イ 中退率改善をめざす取組み

昨年同時期に比べると、転・退学者が半分に減っている。

エ 授業公開の取組み

昨年度から自主的な授業公開を 6 月と 11 月の 2 回、期間を設け実施している。2 回目が今週月曜から始まっている。6 月は公開数が 15 であった。初任者等の経験の少ない教員、指導教諭等のベテラン教員が公開している。今年度は、大阪府教育委員会のパッケージ研修の指定校に認定され、9 月には大阪府教育センターから講師を招き、授業改善へ向けてのワークショップを行った。今後は、国語の若手教員の研究授業を通して、授業改善のためのヒントを学校全体で共有していこうと考えている。

## 2. 安全安心で魅力ある学校づくりについて

(1) 規範意識を身につけさせ、個々の生徒への支援体制を充実させる取組み

ア 遅刻数削減の取組み

遅刻・身だしなみ指導に関する詳細については生活指導部から報告させる。遅刻数については、昨年比 3 割程度減少している。また、身だしなみ、携帯電話指導については、違反カード制を導入し、特に身だしなみについては、非常に効果が上がっている。夏服の下に着る T シャツ等について、白またはワンポイントと指定し、大きな成果を上げた。

(3) 生徒会活動、部活動を通じた生徒の自己有用感、帰属意識の構成

ア 行事、生徒会活動、部活動の活性化

今年度は、校外清掃活動を 10 月と 3 月の 2 回実施する予定であり、10 月は 222 名の部活動員、保健委員、教員の参加のもと実施した。近隣住民で、活動を見かけた方がおられ、お褒めの言葉をいただいた。

部活動の加入率は 55% であり、昨年度に比べ 10% 増えた。特に、1 年生の加入率が増加していることは、今後につながると思う。

## 3. 自立・自己実現の支援について

(1) キャリア教育・就業体験の充実

ア 2 つ目のインターンシップについて、参加者 50 名をめざしたが、25 名の参加にとどまった。

昨年は 17 名であったので、一定の増加があったと考えている。生徒への意識付け等が課題である。

(2) 資格取得を通じた生徒の達成感・成就感の構成、進路実現意欲の向上

ア 資格取得指導については、昨年、合格率が 38% と不振に終わった 2 年生電気系の第二種電気工事士について、今年度は 93% と非常に頑張った。合格率は一定数以上受験している実業系の大

阪府立高校ではトップクラスであった。

(3) 高等教育機関への進学希望生徒の支援

ア 工学系・大学進学専科における取組み

大学進学専科における「大学連携」授業については、工学系から別途、説明させる。

(4) 「校長マネジメント推進事業中期計画推進費」における推進校としての取組み

ア 小型人工衛星製作への取組み

小型人工衛星の打ち上げに参画するという計画であるが、生徒が実際の人工衛星を製作するためのさまざまな取組みを熱心に行っている。今年度は、模擬人工衛星(缶サット)を打ち上げる大会、缶サット甲子園の地方大会で3位に入り、秋田県能代市で行われた全国大会へ出場した。また、全国工業校長協会の「小型人工衛星打ち上げプロジェクト」の製作協力校、全国10校に選ばれた。さらに、冒頭の挨拶でもふれたが、これら一連の成果を大阪府学生科学賞に出品し、優秀賞をいただいた。

4. 地域連携・地域貢献の取組みの推進について

(1) 中高連携の推進

ア 中学校の生徒、保護者、教員の工科高校への理解を促す取組み

中学校教員向けの施設見学会について、7月23日に実施し、参加者は11名であった。昨年は5名であったので少ないながらも増加し、アンケート結果も非常に満足度が高く、来年度以降も実施する方向で検討していく。

学校公開については、本日10月25日にオープンスクールを実施し、約190名の参加があった。今後、11月15日に実習体験、12月13日、年明けの1月10日に学校説明会の実施を予定している。

(2) 「ものづくり」による地域貢献活動の取組み

ア 課題研究充実への取組み

例年のアルミ製朝礼台の製作、いばらき光の回廊(イルミネーション)への参画を行っている。順調に取組みが進んでおり、朝礼台については、茨木市立葦原小学校、茨木市立春日丘小学校に寄贈することに加え、大阪府立桜塚高校には、材料費の提供を受け製作を請け負っている。

関西サイクルスポーツセンターの夢の自転車プロジェクトへの参画についても順調に進んでいる。

(委員長) 改善された部分をピックアップし、報告されていたが、気になる点はないか

(校長) 授業公開について、自主的に公開を呼びかけているが公開数が増えない。また、公開しても見学する教員が少ない。

(委員長) 公開後には何が行っているのか。

(校長) 見学したものが授業者によかった点、改善すべき点について話をしている。

(委員長) ペーパーはないのか。

(校長) 作っていない。

(委員長) 話をしたのち、教員自身がリフレクションペーパー(授業改善報告書)を作らないと見学した効果が薄くなると感じる。

(校長) 管理職が授業見学を行った時には、一定の様式に記入することになっているが、教員数が多いため一人ひとりにフィードバックする時間が短くなっている。また、教員から改善するためのペーパーは要求していない。

(委員) 若い先生が中学校や高校でも多くなってきている。授業以外の業務である生徒指導などについて、若い先生にどのように指導をされているのか。

(校長) 本校の課題である。工業高校であるため専門の学科があり、学科任せである。組織を作り、

指導すべきであると感じている。

(校長) 中学校ではどのような指導をしているのか。

(委員) 教科の壁があることは同じである。研究授業では視点を変えるようにしている。生徒の学ぶ姿勢をどのように作るかなどに視点を合わせると教科に関係なく、多くの先生が見学することができる。研究授業をする場合、実施前後に教科会議を開いている。

(校長) パッケージ研修の予定をたて、密度の高い研究授業を行う予定である。

(委員長) その教員はどのようにして選んだのか。

(校長) 大阪府教育委員会と相談しながら教員を選出した。

(委員長) 改善は見込めるのか。

(校長) 特効薬のように効くことはないと思うが、すべての教員に意識付けをすることができると感じている。

## (2) 工学系大学進学専科について

(工学系長代理) 今年度 11 回の大学連携授業を計画している。まず、5 月 10 日大阪工業大学の大宮キャンパスで講義を受け、大学の食堂で昼食をとった。大学生生活の雰囲気を経験させることができた。7 月 19 日には大阪工業大学枚方キャンパスの研究室を訪問した。7 月 20 日には大阪学院大学、8 月 3 日、8 月 9 日には大阪工業大学のオープンキャンパスに参加を募ったところ多くの生徒が参加した。最近では 10 月 4 日に関西大学から出前授業でエンジンの構造などについて講義をしていただいた。今後の予定では 10 月 27 日に大阪電気通信大学の四條畷キャンパスにある医療福祉工学科を訪問し、大学見学とガイダンスを予定している。また、11 月 1 日には大阪電気通信大学から講師を招き、ロボットについて出前授業をしていただく。1 月には新しく開校する立命館大学茨木キャンパスの見学を予定している。2 年、3 年と進級していく中で多くの大学と連携を計画している。

(委員長) 意見や質問はないか

(委員長) 来年度、多くの志望者を得るために何か行動はしているのか。

(校長) 中学校訪問を行い、理解を得るようにしている。

## (3) 授業アンケートについて

(校長) 非常勤を含めたすべての授業担当者に対するアンケートを 7 月と 12 月の 2 回、生徒に実施している。7 月の結果について報告する。

9 つの質問事項について聞き、4 段階のどれにあたるかをマークシートで回答する形である。よくあてはまるが 4 点、ややあてはまるが 3 点、あまりあてはまらないが 2 点、まったくあてはまらないが 1 点とカウントされる。

本校生徒が苦手とする、数学、理科、英語が低く出ている。特に英語の低さが目立っている。入学生徒の英語の評定平均は、全教科中最も低いという結果が如実に現れているように思う。学年別で見ると、9 項目の平均は 1 年生が 3.15 と最も高いという結果になっている。2 年生 3.03、3 年生 3.11 である。1 年生は昨年度が、2.88 であったので、まさに劇的に改善している。今年度の 1 年生は工学系の設置効果が現れていると考えている。

(委員長) 質問はないか。

(委員長) 進学専科の英語、数学、物理などの結果はよいのか。

(校長) 工学系だけのデータは出していない。

(委員長) 処理についてはどのようにしているか。

(校長) 業者委託をしている。

(委員長) 授業アンケート内容についてもフィードバックが必要ではないか。

(校長) 教員一人ひとりにアンケート結果を返しており、改善すべき点を把握するよう伝えている。

#### (4) 平成 26 年度生徒指導中間報告

(生徒指導主事代行) 今年度より違反カードを発行している。携帯電話の指導や服装指導について使用している。夏服のアンダーシャツを白色に統一した時、生徒から大きな反発があったが若手教員を中心に粘り強い説明を行い、実施することができた。

遅刻数については減ってきているが、常習の生徒が毎日のように生活指導部を通り教室に入っている。反省文を書く生徒が決まってきており、その生徒を減らすことが課題である。

授業中に徘徊、中抜けをする生徒はほとんどいなくなった。しかし、進路が決まった生徒の気が緩んでいるように感じる。

全国的に見ても大阪府は自転車の事故が多いため、登下校時に自転車マナーについて指導を行っており、今年度から回数を増やしている。また、将来、車やバイクに乗る生徒もいるため茨木市の職員に講師として来ていただき、交通安全教室を行った。

(委員長) ご意見、ご質問はないか。

(生徒指導主事代行) 今後は授業を受ける態度が悪い生徒の指導が課題である。携帯電話は触らない、身だしなみも問題ない生徒であっても、私語を続けるなどの行為をする生徒の指導をしていく。

(委員長) 授業中に抜けてしまう生徒がいなくなったということだが、どのような指導を行ったのか。

(生徒指導主事代行) 授業中に教員で巡視を行っている。何かあればその場で指導を行い、生活指導室に記録簿を設け、記入している。

#### (5) 平成 26 年度の進路状況等について

(進路指導主事代行) 10 月 22 日現在の進路状況を示している。学校紹介による就職希望者は 8 割程度であった。2 割程度の生徒が進学を希望している。受験がこれからの生徒が多いため、進学希望者の結果についてここにはほとんど上がってきていない。

学校紹介による就職について、景気が上向いているのか、東京オリンピックが影響しているのかわからないが好調である。求人企業数も増加し、一次試験を受験する前に昨年の求人数を超える状況であった。求人をいただいたが生徒を送ることができず、企業に迷惑をかけることになっている。1 次試験の合格率は 71.3% であり、昨年は 60% を少し超える程度であったため、かなり改善されている。

(委員長) 只今の報告に関してご意見、ご質問はないか。

(校長) 補足であるが、四年制大学の合格について、現在は大阪電気通信大学しか結果は出ていないが、指定校推薦、工科高校特別推薦で合格が見込まれるところもあり、関西大学、近畿大学、龍谷大学、大阪工業大学を受験予定である。

(委員長) 学校紹介による就職について、今日現在では 82.4% ということだが。

(進路指導主事代行) 本年度も 100% を目標にしている。

(委員長) 茨木工科高校だけが好調なのか。

(校長) 他の工業高校も合格率は上がっている。

#### (6) 平成 26 年度資格取得中間報告

(首席) 平成 25 年度については確定人数である。平成 26 年度については中間報告となっているため数値が大きく減っているように見えるものもある。特に上昇したものは第二種電気工事士で

ある。本年度は電気系を選択した生徒は必ず取得しようという気持ちを1年生のキャリアガイダンスで植え付け、2年生でも頑張らせることができた。

(委員長) どのようにして気持ちを植え付けたのか。

(電気系主任) 担任が電気工事士の資格取得の指導に堪能であり、生徒も放課後や休日の指導にもついてきた。この合格率は、本校開学以来トップである。

(7) 平成26年度部活動等実績(中間報告)について

(特別活動指導部主任) 優勝の数は自転車競技部が圧倒的な数になっている。また、先ほど報告があったが、スーパーサイエンス・テクノロジー部が大阪府学生科学賞で優秀賞を受賞している。部活動加入率が上昇しており、これを来年も維持できるのか、さらに上昇させることができるのか心配している。また、生徒会として部活動を活性化させるためにできることは、予算のバックアップであると考えている。しかし、生徒会から配分できる全体の予算は変わっておらず、さらに消費税の増税で各クラブが購入できるものは少なくなる見込みである。そこで、お金をかけず応援できることとして、実際に多くの部活動の公式戦に応援に行っている。校長や教頭、教員、当該部活動以外の生徒にも声をかけ、応援に行くよう働きかけている。

(委員長) お気づきの点などないか。

(委員長) 部活動加入率が上昇したということだが、特定の部活動だけが上昇したのか。何か行ったのか。

(特別活動指導部主任) 全体的に上昇した。部活動紹介、部活動一斉入部日に入るよう呼びかけをおこなった。上昇した一番の要因は今年度の入学生は部活動に入るものだと考えていた生徒が多かったのではないかと感じている。

(委員長) 部活動の加入者は就職状況もよいのではないか。

(校長) 確かに就職状況はよい。多くの教員がそのことについて生徒に伝えている。

(委員長) 部活動に加入し、先輩、後輩の縦の関係を学ぶことは就職に有利であると感じる。

(委員長) 本日の進捗状況の報告はよいものが多かったが、再度、聞いておきたいことなどはないか。

(委員) 夜間パトロールをしたときに、学校の近隣で迷惑駐車があったが学校関係者であるのか。

(校長) 必要に応じて校内駐車の許可を出すため、学校近隣に長時間の駐車をする学校関係者はいないと考えている。定時制を含め、確認しておく。

(委員) 6月に行われた参観であるが、3年生の数学を見ていた保護者が「この授業わかりやすい。自分が高校のときに、このような授業を受けてみたかった。」と発言されていた。参観日に保護者から感想を書いてもらい、教員にフィードバックできないか。

(校長) 来年から早速させていただきたい。

(委員長) 貴重なご意見ありがたく思う。以上で協議を終了する。

#### 閉会の挨拶

(校長) 厳しい意見などあったが、年度末に向け改善をしていく。今後とも忌憚ない意見をいただきたい。

#### 事務連絡

(首席) 第3回学校協議会の希望日時を調整するため書類を郵送する。